



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後 1時40分
電話 56-0303(直通)・有線 8888 (直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

なんだか うれしい

大事なことを探す場としての学校

□■他都市授業参観から□■

長野県内他都市の中学校一年生 道徳の授業でのことでした。学ぶ資料の内容は



先生が
居てくれるから
がんばれる

コンビニでの出来事。商品が見つからないことに苛立つおばさん。レジの前で外国人の店員さんに向かって「日本語も店の事も分からないでしょう」と罵るような言葉を浴びせるおばさん。そのおばさんに注意するか、しないかについて、葛藤する主人公について話し合う場面です。

子どもたちから意見が出されます。

- 主人公のように「注意をする」ことはすごいけれど、行動となるとしない
- 正しいことを普通に言うのは良い事だけれど、言い返されたり、もめごとに巻き込まれたりするのは迷惑、言わない。
- 良いと分かっているけれど、周りの目が気になる。行動しようとは思わない。そんな発言が続く中、Y君が手を上げました。

言ったことに対して言い返されてしまうという問題なんだけれども、同じ気持ちの人がたくさんいれば、一人にならないと思うんだよ。言えば、一緒の人が増えていくんじゃないの。

実感のこもった思いがあふれるような声でした。共に学ぶ仲間たちから、出されていく「周りの目が気になる」「巻き込まれたくない」「迷惑」等に頷くように聴き入っていたY君。そして手を挙げ発言を求めたのです。

「言い返されてしまうという問題なんだけれど・・・」と前置きして語り出します。

「同じ気持ちの人がたくさんいれば、一人にならないと思うんだよ」と。Y君は自分の事として、この問題を引き受けていました。

『振り返りカード』 小学校で相手の行動がきっかけなのに悪口を言われたこともあった・・・でも我慢の限界を超えて、相手に悪口を言い返していた。殴られたら殴り返していた・・・そういうことをいっぱい経験してきた。いけないと思って我慢することもたくさんあったけれど・・・我慢しきれない「悔しい」自分の心があった。中学にきて、クラスの仲間に出会って、今の自分を乗り越えたい・・・とすごく思うようになった。

振り返りのカードにこう記したY君。「我慢の限界を超えて・・・」と人間的な未熟さを学級全体にさらけ出していきます。おそらく、こうした未熟さをさらけ出せる出会いが、この学級の中で生まれているのではないか。お互いの未熟さを認め合うところから教育が成り立つという歩みが見えてくるのです。信頼しようと思ひ、でも裏切られ、しかし自分の心の中にある弱さにも向き合いながら、粗野に行動してしまった自分を見つめ続けてきたY君だからこそその振り返りです。今、共に暮らしている仲間たちに「安心して向き合える心のつながり」を感じ始めた日々。中学校で出会った仲間や先生との出会いの中で芽生えてきた「信じることで成り立っている仲間との暮らし」という意識。人は信じることで前に進める・・・そんな気持ちに支えられながら手を挙げたY君。「同じ気持ちの人がたくさんいれば、一人にならないと思うんだよ～」の「同じ気持ちの人が」とは、差別的な言葉に下を向きながら耐えている外国人の辛さに優しさという強さでぶつかっていった主人公への共感をさしています。そこに自分を重ねたであろうY君の人間的な成長の一瞬。

そして、その成長は、担任教師の成長に、共に暮らす仲間たちの成長に深く結びついていくと思うのです。共に暮らす教室の仲間という存在。子どもと子どもの生活の只中に、小さな事実として煌めくような言葉や姿が見えてくるのです。

「学校は勉強するところ」という意識が強く根付いてしまっています。結果主義やレッテルをはるような在り方はトラブルを生み出し、子どもたちを生かすことには結局つながっていません。

学校とは、まずは「仲間と共に、暮らしを生み出していく場」。そして「当たり前のようにやっていることの意味を考え、掘り下げ、人として生きるために大事なことを探す場」という学校の在り様が問われていると思うのです。